

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	コード	名称	会計	コード	名称
事業名	404	青山文化センター隣保館事業	01	01	一般会計
基本施策	39	部落差別の解消に向け、同和行政を推し進める。	03	03	民生費
			03	03	同和行政費
			02	02	隣保館費
担当部課名		青山文化センター	102	102	隣保館事業経費
作成者氏名	興永悦子	連絡先	06	06	青山文化センター隣保館事業経費
		55 - 2411			

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
事業の目的	隣保館の対象地域の住民及び市民	市民が同和問題を正しく理解し、人権意識が高まっている。
本年度事業内容	生活相談をはじめ各種相談活動を実施し、指導と助言を行い、地域住民が不安を感じることなく暮らせるよう問題の解決を図る。 周辺地域や、伊賀市民を対象とした学習会や講演会を実施し、主体的に同和問題に取り組む人材を養う。 周辺地域住民との交流を促進し、地域で支えあう人の輪を広げる。	
開始年度	平成 年度	終了年度
	平成 年度	根拠法令・要綱等

投入資源

		H17	H18(予算)	H19(予算)
投入人員	正規職員 (人)	1	1	1
	人件費合計(A)	7,200	7,200	7,200
支出内訳(千円)	事業費(B)	1,860	2,271	2,362
	報償費	957	1,104	1,190
	需用費	683	696	690
	使用料及び賃借料	116	125	154
	その他	104	346	328
合計(A+B)		9,060	9,471	9,562
財源内訳(千円)	特定財源			
	国庫支出金	867	1,078	1,110
	地方債			
	受益者負担			
一般財源				
		8,193	8,393	8,452
上記 ~ に関する特記事項				
嘱託職員;生活相談員 1名				

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
生活相談の回数	回	857	880	890			
人権・解放講座の開催数	回	7	7	7			
人権・解放講座の参加者数	人	252	290	310			
青山文化センター文化祭の参加者数	人	800	830	850			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
人権・解放講座の参加者数	充実した講座の開催が多く参加者を得る重要な条件であり、参加者が増えることで、同和問題に対する正しい認識を持って差別の解消に取り組む人が増える。このことから参加者数を指標とした。	人	252 目標 ()	290	310
青山文化センター文化祭の参加者数	伊賀市域から多数訪れることによって広域的な啓発が行えることから、参加者数を指標とした。	人	800 目標 ()	830	850

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

<p>地域の高齢化が進む状況の中、生活相談の充実が益々求められている。 人権・解放講座は地域で同和問題の解消に向けた取り組みを主体となって進める人材を養成する上で有効性が高く、継続して実施することを望む声が高い。学習会や講座を充実した内容にし参加者を増やす工夫により、効率的な運営をしなければならない。</p>

評価	必要性	4	生活相談をはじめとする各種相談事業は、地域住民の生活基盤を向上させるために必要であり、今後も事業を継続する。 学習会や講座は講師の発掘や充実した内容になるように工夫し、効率的に運営する。	総合評価
	有効性	4		A
	達成度	4		
	効率性	2		